

# 平成18年度 活動報告書

—ふるさと農村活性化基金事業—



沖縄県農林水産部村づくり計画課

## 目次

本庁	
水土里の路ウォーキング	．．．．． 1
北部	
農業農村食と自然の体験実践交流	．．．．． 2
平敷地区排水路浚渫及び草刈り活動	．．．．． 3
宜野座村土地改良区内清掃活動	．．．．． 4
源河地区内清掃活動	．．．．． 5
田んぼの学校・めだかの学校	．．．．． 6
中部	
西原地区ふるさと街道創造運動	．．．．． 7
南部	
農業体験ふれあいバスツアー	．．．．． 8
宮古	
学校連携農業施設めぐり	．．．．． 9
八重山	
伊原間地区ふるさと花園づくり	．．．．． 10
上原地区農村環境保全活動	．．．．． 11
大富地区ふるさと美化活動	．．．．． 12
大川地区防風林帯の緑化活動	．．．．． 13
定年帰農支援講座	．．．．． 14
底原ダム祭り	．．．．． 15

# 水土里の路ウォーキング

## ■市町村名■

南城市

## ■活動主体または地域リーダー■

沖縄県、南城市、沖縄県ウォーキング協会

## ■活動日■

平成19年1月21日(土)

## ■参加者、人数■

都市住民 50名程度

## ■関連事業■

県営畑地帯総合整備事業 志喜屋地区

## ■基金事業を活用した理由■

「水土里の路」散策を通して、農村の自然に触れながら、土地改良施設の持つ様々な役割や大切さへの理解を求め、地域住民による維持管理活動の必要性を啓発する。

## ■活動内容■

土地改良施設を中心に美しい農村景観を楽しみながら、地域の歴史や文化にも接することができる「水土里の路ウォーキング」コース(13km)を設定した。当日は、沖縄県ウォーキング協会や地域住民が50名程度集まったものの、大雨であったため、ウォーキングは中止せざるを得なかったが、横断幕を掲げての式典や、事業パンフレットの配布などでPR活動を行った。

## ■活動費用■

22,000円(横断幕)



# 農業農村食と自然の体験実践交流

## ■市町村名■

東村

## ■活動主体または地域リーダー■

地域リーダー 外間正人

## ■活動日■

平成19年3月21日

## ■参加者、人数■

子供会及び地域住民 30名

## ■関連事業■

県営農地開発事業宮城地区

## ■基金事業を活用した理由■

農業体験及び自然観察、食品の加工体験をとおして地域の子供達をはじめ、県内外の学生等と地域住民との交流を図り、地域住民活動の活性化をめざす。

## ■活動内容■

食品の加工体験を実施することにより、子供達の「食」に対する意識向上が図られると同時に地域住民と子供達のコミュニケーションの場とすることができ、地域活性化につながった。また、石窯で薪を燃やし、自然の力による食品体験を実施することにより、普段体験できない自然の体感と食育の推進にもつながった。

今後は、グリーン・ツーリズム体験と食品加工体験及び自然体験を組み入れたプログラムを県内外の学生等を対象に実施していく計画である。

## ■活動費用■

300,000円（石窯設置費用）全額基金から支出



# 平敷地区排水路浚渫及び草刈り活動

## ■市町村名■

今帰仁村

## ■活動主体または地域リーダー■

地域リーダー 今帰仁村字平敷区長 大城稔

## ■活動日■

平成18年7月19～21日

## ■参加者、人数■

農家、婦人会、老人会 計30名

## ■関連事業■

県営畑地帯総合整備事業平敷地区

## ■基金事業を活用した理由■

地域住民による清掃、草刈り活動を行うことにより、土地改良施設の保全に対する必要性及び地域住民活動の重要性を啓発し、農地の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図った。

## ■活動内容■

土地改良区内を流れる排水路に土砂が溜まり、悪臭が漂っているため土砂の浚渫及び草刈りを行った。

## ■活動費用■

300,261円（バックホウ、ダンプ使用料、燃料費、手袋、長靴等）  
うち300,000円基金から支出



# 宜野座村土地改良区内清掃活動

## ■市町村名■

宜野座村

## ■活動主体または地域リーダー■

地域リーダー 土地改良区理事長 平田俊雄

## ■活動日■

平成18年11月25日～12月9日

## ■参加者、人数■

農家、各行政区長 213名

## ■関連事業■

県営畑地帯総合整備事業 宜野座地区

団体営ほ場整備事業 平原地区

## ■基金事業を活用した理由■

地域住民による清掃、草刈り活動を行うことにより、土地改良施設の保全に対する必要性及び地域住民活動の重要性を啓発し、農地の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図った。

## ■活動内容■

土地改良区内の清掃を実施することで、農道、排水路、沈砂池、防風林帯等の施設が良好に利用されることになり、作業に参加した農家も地域環境に対する認識、並びに啓発活動が図られ、地域活動の活性化を推進することが出来た。

## ■活動費用■

308,280円（ユンボ、チェーンソー、4tダンプ等）

うち300,000円基金から支出



# 源河地区内清掃活動

## ■市町村名■

名護市

## ■活動主体または地域リーダー■

地域リーダー 源河区長 大城哲郎

主催 源河区

共催 源河土地改良区、野国名開墾組合、瀬洲山第1・第2開墾組合

## ■活動日■

平成18年12月9～11日、平成19年1月23～25日

## ■参加者、人数■

土地改良区・開墾地組合員70人、区民100人

## ■関連事業■

団体営農道整備事業 源河地区

## ■基金事業を活用した理由■

地域住民による清掃、草刈り活動を行うことにより、土地改良施設の保全に対する必要性及び地域住民活動の重要性を啓発し、農地の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図った。

## ■活動内容■

源河土地改良区、開墾地区の農道と排水路の草刈りと浚渫などの作業を共同で行うことにより、組合員及び地域の連携と協調を図った。

## ■活動費用■

291,960円（2tダンプ、ホイールローダー、チェーンソー、ユンボ、燃料代）  
うち290,000円を基金から支出



# 田んぼの学校・めだかの学校

## ■市町村名■

国頭村

## ■活動主体または地域リーダー■

地域リーダー グループエコライフ主宰 西江重信

## ■活動日■

平成18年6月30日（金） 田植え、めだか放流

平成18年11月19日（日） 稲刈り、しめ縄づくりレクチャー

平成18年6月～12月 給食の食べ残し調べ、ふりかえり、ワークショップ

## ■参加者、人数■

那覇市立銘苅小学校5、6年生 計132名

## ■関連事業■

県営ほ場整備事業 奥間地区

## ■基金事業を活用した理由■

農業を、一面的、短期の疑似体験ではなく、「農業の手伝い」という視点で食料生産に係る一連の作業を体験することで、農業農村のもつ様々な役割や大切さへの理解を求めた。

## ■活動内容■

田植え、収穫とあわせて田んぼの生き物観察を行うことで、日本の食の基本である米作りに関わり、無農薬、無化学肥料により維持されている生き物のワンダーランド「田んぼ」を理解する。

また、田植え、稲刈り体験前後における給食の食べ残し、朝食摂取の有無等を児童が調査し、比較学習する。あわせて、地産地消、野草食、伝統食、世界の飢え現状についても理解促進をはかる。

## ■活動費用■

430,700円（バス使用料、保険代、苗代等）

うち250,000円を基金から支出





# 西原地区ふるさと街道創造運動

## ■市町村名■

うるま市

## ■活動主体または地域リーダー■

活動主体 中部農林土木事務所、うるま市与那城西土地改良区  
共催 うるま市農村整備課

## ■活動日■

平成18年11月25日まで 草刈り、耕起、防草シートの敷設等  
平成18年11月26日 植樹活動

## ■参加者、人数■

沖縄県、土地改良区、うるま市 計45名  
農家、地域住民 計40名

## ■関連事業■

県営畑地帯総合整備事業西原地区

## ■基金事業を活用した理由■

地域住民で防風林を植栽することにより、畑地保全の意識が向上することを目的とした。

また、地域住民による清掃、草刈り活動を行うことにより、土地改良施設の保全に対する必要性及び地域住民活動の重要性を啓発し、農地の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図った。

## ■活動内容■

当地区の幹線農道は農耕車両のみではなく、地域の生活道路として一般車両の利用が急増している。しかしながら、道路利用が増加する反面、道路沿道及び植樹帯の雑草が繁茂し道路環境が悪化している現状にある。そこで、幹線農道沿いの植樹帯の保全活動を行うことで、土地改良施設の適正な維持管理について、「地域の財産は地域の手で」の共通認識を再生し、地域住民の共同作業により地域の連携を醸成し、道路景観の創造と保全を図る。

## ■活動費用■

543,550円（肥料、支柱、防草シート、苗木）  
うち498,000円を基金から支出



# 農業体験ふれあいバスツアー

## ■市町村名■

糸満市

## ■活動主体または地域リーダー■

活動主体 水土里ネット糸満、水土里ネット沖縄本島南部、水土里ネット沖縄  
共催 沖縄県、糸満市、地球人会議

## ■活動日■

平成18年10月19日

## ■参加者、人数■

糸満市潮平小学校4年生126名

## ■関連事業■

団体営かんがい排水事業真栄平地区  
団体営農地開発事業真栄平地区  
国営かんがい排水事業本島南部地区

## ■基金事業を活用した理由■

都市地区の小学生に総合学習の一環として、農作業体験及び土地改良施設等の見学を行うことにより農業農村の果たしている多面的機能の役割及び保全の必要性を理解させ、将来的な地域活動の担い手の育成を図った。

## ■活動内容■

水土里ネットの21世紀土地改良区創造運動の一環として行われた。  
参加者は大型バス2台に分乗し、土地改良事業やイモについてレクチャーを受けた後、芋掘りを行った。収穫したイモの一部は老人ホームへ贈呈し、残りはおみやげとして持ち帰った。  
その後、近郊の防風林帯や沖縄本島南部慶座地下ダムを見学、子供達は疑問点などを質問して水の大切さを学んだ。

## ■活動費用■

553,670円（保険料、バス使用料、芋掘り機リース、手袋等）  
うち150,000円を基金から支出



# 学校連携農業施設めぐり

## ■市町村名■

宮古島市

## ■活動主体または地域リーダー■

活動主体 宮古土地改良区、宮古支庁農林水産整備課

## ■活動日■

平成18年8月31日（木）

## ■参加者、人数■

宮古島市立福嶺小学校4、5、6年生とその父母 計60名

## ■関連事業■

県営ほ場整備事業七又地区、県営かんがい排水事業東七笠地区、  
県営農免農道整備事業バタラス地区、来間地区等

## ■基金事業を活用した理由■

土地改良事業によって整備した施設等を国営宮古地区受益農家の子供達を中心に  
見学させることにより、農業に対する理解を深め、農業資源の保全の重要性を啓発  
し、将来の農村地域住民活動の担い手を育てる。

## ■活動内容■

宮古島市立福嶺小学校とその父母が、地下ダム資料館、区画整理、スプリンク  
ラー、ファームポンド、農道、漁港、マングローブ遊歩道等島内各所の土地改良施  
設等を見学した。各施設では支庁や土地改良区職員らが子供達にわかりやすい言葉  
で説明し、子供達はメモをとりながら土地改良施設の仕組みについて理解を深め  
た。

## ■活動費用■

85,000円（バス使用料、保険代、資料作成費等）



# 伊原間地区ふるさと花園づくり

## ■市町村名■

石垣市

## ■活動主体または地域リーダー■

地域リーダー 伊原間公民館長：根間 建有

## ■活動日■

平成18年10月26日（木）

## ■参加者、人数■

伊原間公民館、婦人会、伊原間中学校 計120人

## ■関連事業■

団体営かんがい排水事業伊原間地区

## ■基金事業を活用した理由■

集落入口の三叉路と集落内の植栽樹に住民総出による花園づくりを行い、農業農村整備事業で造成された畑かん施設を活用し、環境美化と地域住民活動の活性化を図る。

## ■活動内容■

地域住民や中学生が、伊原間集落入口や、伊原間中学校前などで、サルビアやアマリリス、ヤコウボクなど10種類の草花や花木の苗約1,500本を植えた。

## ■活動費用■

408,760円（苗木、重機使用料等）  
うち400,000円を基金から支出



# 上原地区農村環境保全活動

## ■市町村名■

竹富町

## ■活動主体または地域リーダー■

地域リーダー 津嘉山 彦

## ■活動日■

平成18年12月9日～12日

## ■参加者、人数■

上原地区組合員、船浦中学校、おやじの会 計80人

## ■関連事業■

県営農地開発事業（上原地区）

## ■基金事業を活用した理由■

防風林として植えたモクマオウが更新時期であることや、台風の度に道路を妨げることなどで地元から撤去要望があった。撤去したモクマオウは、船浦中学校で行われている炭焼き（木炭）活動に再利用する予定である。

## ■活動内容■

農家、船浦中学校生徒の協力を得て道路清掃や記念碑周辺の環境整備と防風林帯のモクマオウを撤去した。また、あらたに防風林としてフクギの苗150本を、地域リーダーの津嘉山彦さんの説明（防風林の果たす役割と苗の植え方）を受け、船浦中学生全生徒に植樹してもらった。作業後の感想では、農地が防風林で守られていることを初めて知ったこと、島に戻ってきたときに大きく成長していることが楽しみなどと話していた。この活動をとおして、土地改良施設保全に対する必要性と地域住民活動への理解が深められた。

## ■活動費用■

427,000円（重機使用料、保険料、芝生、肥料、除草剤ほか）



# 大富地区ふるさと美化活動

## ■市町村名■

竹富町

## ■活動主体または地域リーダー■

活動主体：大富公民館・大原中学校・竹富町土地改良区

地域リーダー：大原中学校PTA副会長 慶田本長正

## ■活動日■

平成18年12月8日～平成19年2月24日

18.12.8 旧タンク周辺の瓦礫撤去や敷地内の除草・整地・タンク清掃

19.1.25～2.23 大原中学校生徒によるタンク壁画作成活動

19.2.20～2.23 大富公民館及び業者で整地と植木準備、ベンチ設置、芝搬入活動

19.2.24 地域住民による美化活動（芝の定植、タンク・ベンチペイント塗り仕上げ等）

## ■参加者、人数■

大原中学校、大富公民館、婦人会、青年会、老人会、土地改良区組合員 計85人

## ■関連事業■

県営農地開発事業大富地区

## ■基金事業を活用した理由■

集落の近隣に土地改良施設の給水タンクがあり、大富地区住民の緊急避難場所となっていることから周辺の美化活動をとおり、土地改良施設の役割を理解しながら、地域住民手づくりの“いこいの場”として地域の活性化を図った。

## ■活動内容■

大原中学校生徒によるタンク壁画は図案から壁画作成まで生徒中心で行った。大富公民館の積極的な協力があり、基金事業内容を良く理解し取り組んでくれた。敷地内の整地やベンチの設置、植木の選定など業者との調整を細かく行った。地域住民による全体活動として、芝生の定植やベンチとタンク側面のペイント塗り作業等を行った。

## ■活動費用■

501,680円（壁画費用・重機使用料・芝代等）

500,000円は基金から支出



# 大川地区防風林帯の緑化活動

## ■市町村名■

石垣市

## ■活動主体または地域リーダー■

地域リーダー PTA会長 新盛安幸

## ■活動日■

3月18日、3月25日

## ■参加者、人数■

宮良小学校児童・父母、宮良公民館役員、登野城小学校児童・父母 70人

## ■関連事業■

県営ほ場整備事業 大川地区

## ■基金事業を活用した理由■

近年、防風林帯の老木化や、ゴミの不法投棄などにより環境が損なわれている。防風林帯の植樹作業や清掃等により美しい農村環境を取り戻すことと、子供たちに防風林帯の役割や、農村環境保全への理解を深めさせることを目的とする。又、土地改良施設を見学することにより農業用水のしくみや役割、農業用水のもつ多面的機能等を理解してもらう。

## ■活動内容■

底原ダムをスタートに二又配水池、平喜名堰、揚水機場と、農業用水がダムから畑に届くまでの過程を学習し、土地改良施設の役割、大切さへの理解を深めた。

又、防風林帯への防風林の植栽作業や清掃をすることにより、防風林の役割や農村環境保全への理解を深めた。

## ■活動費用■

604,000円（苗代等）

全額基金から支出



# 定年帰農支援講座

## ■市町村名■

石垣市

## ■活動主体または地域リーダー■

活動主体 八重山支庁農林水産整備課、八重山農政・農業改良普及センター、宮良川土地改良区  
協力 石垣市農業委員会

## ■活動日■

平成18年7月9日（座学）農地取得に関する注意事項等、稲作の流れ・農業経営について  
平成18年7月19日（実践）苗作り  
平成18年7月20日播種  
平成18年8月5日（座学）青年農業士講話（実践）田植え  
平成18年8月20日（座学）土地改良施設見学ツアー（実践）水田の維持管理作業  
平成18年9月2日（実践）病害虫防除、追肥  
平成18年9月24日（座学）農村文化について、農薬の正しい使い方について  
平成18年10月25日（実践）収穫作業

## ■参加者、人数■

参加者13名（概ね1a/人）

## ■関連事業■

県営担い手基盤整備事業米節西地区

## ■基金事業を活用した理由■

近年、定年を迎える団塊世代の就農希望や都市住民等の農村への回帰など、農業農村に対する評価が急速に高まっている。これらの人々を対象に農業を取りまく環境変化と農業農村整備事業の有用性に関する講義を行うとともに、田植えから収穫までの一連の作業を実践してもらうことにより、農地や農業用水、農村環境に対する理解を深め、もって農業農村整備事業の意義をPRすることを目的とする。

## ■活動内容■

八重山在住者で定年後に農業従事を希望する人、草刈りなど地域資源保全活動に参加する意志がある人などを対象に、土地改良や農村文化に関する知識、営農の基礎的な知識、農地法に関する講義を行うとともに、実際に苗作りから田植え、手入れ、収穫、脱穀といった実践活動を行った。

## ■活動費用■

221,300円（謝礼金、保険料、マスコミへの広告費、消耗品等）  
うち220,000円を基金から支出





# 底原ダム祭り

## ■市町村名■

石垣市

## ■活動主体または地域リーダー■

活動主体 八重山支庁農林水産整備課、石垣市、宮良川土地改良区

## ■活動日■

平成18年10月14日(土)

## ■参加者、人数■

地域住民 600名

## ■関連事業■

国営かんがい排水事業宮良川地区

## ■基金事業を活用した理由■

国営かんがい排水事業で整備した底原ダムが良好な景観形成、親水機能といった多面的機能を有していることをPRするため、ダム本体及びその周辺施設を活用したイベントを開催することにより、農業用ダムが多くの住民にとってより身近な施設となることを目的とする。

## ■活動内容■

まつりでは、ダム周辺を活用した「生き物探索スタンプラリー」、水面を活用したカヌー体験とボート遊覧、堤体と土手を活用した「牧草ロールころがし」、「親子土手すべり台」、「消防放水体験」といった催しに加え、操作室の見学やダムの多面的機能や周辺の生き物を紹介したパネル展を行った。休日とあって親子連れが多く、当初予定していた人数を超える600名以上の来場者があり、どの催しも申込者でいっぱいとなった。

また、イベントに先立って公募していた同ダムのロゴマークとキャッチフレーズの表彰も行い、受賞者には同ダム受益内でとれたお米「ミルクィーン」がプレゼントされた。

## ■活動費用■

551,936（謝礼金、保険代、消耗品、その他）

うち224,000円を基金から支出

